

# 富士山初登頂!!



一度は登って見たかった富士山。思い立って出かけたものの、車で向かう途中でさえ本当に登るのか半信半疑?! 途中の山小屋まででも行ければいいか、という位のつもりで登り始めました。標準コースの倍位のペースでしたが、時間さえかければなんとかなるかと。今は眺める度にあの上に立ったんだなあ・・・と感慨に浸っています。

富士山。山歩きにハマってから沢山の山に登ってきましたが、何故か未踏でした。ペンションを始めてからも「一度は登りたい」と思い続けて早や〇年・・・。毎年夏は一番忙しい時期。一段落したときには登山シーズンは終わっているのが常でした。実は私は特に下りが苦手!!

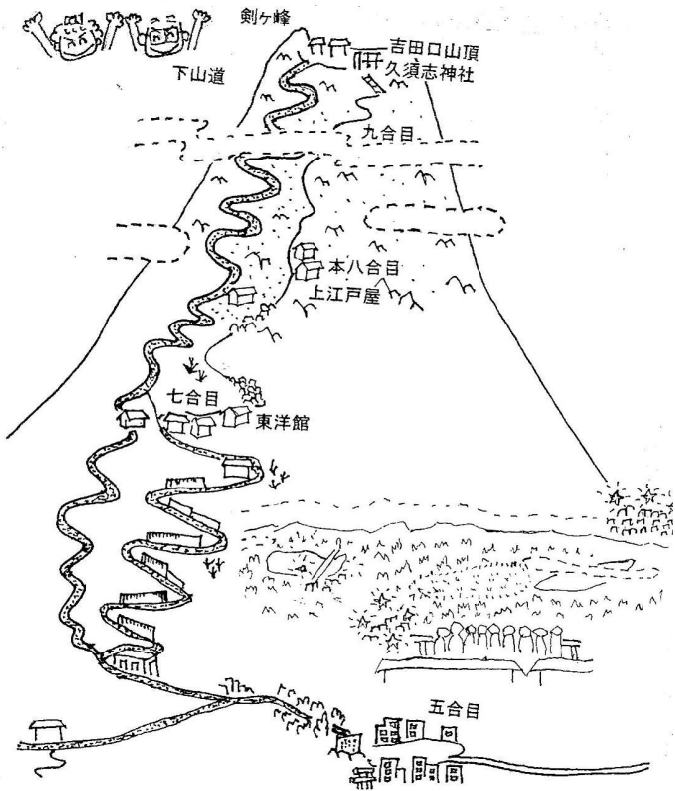
急な下りや長い下りになると膝が痛くなってしまうのです。特に富士山は山頂から一気に登山口の五合目まで下るのも不安でした。

しかし、色々調べてみると、普通は1泊2日の日程で登るところを、2泊3日の行程で登るツアーもあるらしい。「1日目は七合目位の山小屋泊、2日目に登頂してから八合目位の小屋に泊まり、3日目に下山」という日程を見て、これなら行けるのでは、と思いました。そのためには最低3日のお休みが必要です。予約表を見てみるとちょうど8月19日から3日間空いています! よし、行くぞ富士山!!



午前8時30分出発、中央道小淵沢インターから一宮御坂インター経由で河口湖大橋を渡って午前10時過ぎに富士北麓駐車場に到着。千台は停められるという広い駐車場です。

富士登山を目指す人はここに車を停めてシャトルバスで五合目まで行きます。30分毎に運行しているバスに乗り込むと数分で富士スバルライン。始めはシラカバ、アカマツ、ハンノキなどの雑木林の中の道、次第にコメツガ、カラマツなどの針葉樹林にダケカンバ、ナナカマドなどの木々が混じってきます。中間あたりまで登ってくる



とあたりはもう秋の気配。気の早いナナカマドやハギなどが一部紅葉し始めています。40分ほどで五合目のバスターミナルに着きました。「高度順応するために1時間位は五合目で休憩するのが良い」とガイドブックに書いてあったので、レストランで昼食。すぐ脇にある小御岳神社へもお参りに行きました。12時20分、協力を金を支払い、登り口はどこですか?とモロの初心者の質問をして笑われながらいざスタート。まずは富士山登山口の大きな看板の前

社へもお参りに行きました。12時20分、協力を金を支払い、登り口はどこですか?とモロの初心者の質問をして笑われながらいざスタート。まずは富士山登山口の大きな看板の前

## 出発! 花小屋まで

で記念写真。最初は、ゆるやかな下り(!!)そして樹々の中の道を行くと泉滝の分岐。樹木はなくなり、一面砂利とわずかに背の低いイタドリなどの野草が生えています。この登りが山頂へ向かってジグザグに続いていきます。しばらく登っていくと登山道は大きな土砂止めフェンス沿いの道になってきて、見上げると、このフェンスが幾重にも重なって、まるで要塞のようです。七合目の一番下にある花小屋に着き、テラスで休憩していると、なんと見知った親子連れが登ってきました。「八ヶ岳歩こう会」メンバーのFさん親子でした。娘さんとお孫さんと一緒に富士登山に来ていたのです。「きょうは八合目の蓬莱館まで」と言っているのが聞きこえました。

ここから右手の道に入りました。左手には樹海が広がって、その向こうに山中湖が光っていました。比較的平坦な砂利道を50分ほど歩いていくと標高2390m。六合目の富士山安全指導センターの建物が見えてきました。ここからが本格的な富士登山の道です。この先、大きな

## 今夜の宿・東洋館

休憩後、再び登り始めます。目指す今日の宿・東洋館までは岩場でかなり苦労して登りました。ついた時にはへろへろです。この東洋館は2人の個室のように仕切られている部屋かおるのが魅力でした。到着して予約している旨を告げると、脱いだ登山靴をいれるビニール袋をくれ部屋に案内してくれました。食堂を通って寝室へ。敷布団の上に2人

分の寝袋、隣とは合板で仕切られ、入口はカーテンが掛けられた個室風(?)でした。ザックや靴を整理してテラスへ出て眺望を楽しむ人だもの中へ。

右手遥か下方に山中湖が臨め、左手に目を移すと大きな湖、その中央に橋が架かっている「あれが多分河口湖大橋」!! さらに左手の雲海の上には八ヶ岳、間を空けて南アルプスの峰々が頭を出しています。山中湖の手前は樹海ではなく広大な草原のようです。「あそこは一体何だろう」と疑問に思っていると、「北富士演習場だ」と言っているのが聞きこえました。

## 眠れずに3時起床

東洋館のテラスの脇にトイレがあり、その先から山頂へ向かう登山道が続いています。その登り口まで行ってみると、ゴツゴツした岩の急斜面、ここを明日登るのかと内心穏やかではありません・・・。夕方5時、夕食の時間です。富士山の山小屋の食事はほとんどがカレーライスと聞いていました。ここはハンバーグ。板の間の食堂に机が並べられて、ハンバーグにお新香味噌汁、おかわり自由のご飯。それと朝ごはん用のお弁当がうらへつづく

表からつづく

配られました。生ビールを1杯だけ頂きました。夕食後、日は落ちてテラスに出ると下界の富士吉田や河口湖の街の灯り、見上げると上空には満天の星が瞬いていました。

部屋に戻って寝袋に潜り込むものの、次々に登ってくる登山者の声、また仕切りでは遮れない盛大なイビキ、なにより気持ちが高揚しているせいか、全く眠れません！午前0時を過ぎた頃からは、頂上で御来光を見ようとする人たちが早くも出発の準備を始め、その気配でさらに眠るどころではありません。私達は頂上

のご来光にはこだわらず、ゆっくり4時ごろから準備して行こうと思っていたのですが、眠れないので3時過ぎには起きてしまいました。

3時半に食堂に行き、夕食のときに配られた朝ご飯用のお弁当(おいなりさん3つ、卵焼き、ウインナ)と食堂で販売していた卵スープを頂き、出発の準備に入りました。テラスに出ると、御来光を見ようとする人たちがいっぱい。

正面に見える雲海の先の雲が赤く染まっています。

どこまでも八合目

午前5時過ぎ。太陽は昇ったようですが、ちょうどその

あたりに雲があり、その雲の上に日が昇るまでにはまだしばらくかかる、とのことで出発することにしました。岩盤の急登の登山道、両手も使いながらなんとか登っていくうちに「多分、あの辺りが日の出の位置だろうな」と思っていた地点とはずいぶん離れた地点で雲の切れ間から太陽が見えてきました。

登山道脇で休憩していると、下からガイドさんが引率している年配の20〜30人のグループが昇ってきました。ちょうど私達と登るペースが同じくらいだったのでしばらくこのグループとは抜きつ抜かれつという感じ。登り始めて3時間、八合目に建つ白雲荘に着きました。小屋のテラスで休憩、しばらく登っていくと今度は「本」八合目です。幾つかの山小屋の一つ・上江戸屋へ入って、今晚の予約ができてか尋ねるとOKの返事。荷物の一部を指定された寢床に置かせてもらい少し身軽になっ

て出発しました。

八合目、本八合目の次は九合目ではなく、なんと八合五勺！エンドレス八合口です(愛読書「山登りはじめました」より)。このあたりから雨がポツポツ落ちてきたかと

遠い頂上・・・

思ったら、あつと言う間に本降り。あわてて雨具を身に着けました。さらに小一時間でやつと九合目の鳥居。一歩一歩休み休み登っていくと目指す吉田口頂上らしきものが見えてきました。最後の石段を登りきるとそこが富士山頂の本宮浅間大社奥宮で、その入口脇に吉田口・須走口頂上の石碑が建っていました。ちょうど12時でした。

吉田口頂上に立つ

やりましたッ!!石碑の前で握手している写真を撮ってもらい、久須志神社にお参りをして、頂上の扇屋さんでお昼。牛井とうどん。缶ビール1つ。頂上は霧雨状態。小屋が並ぶ

一帯から少し外れると剣ヶ峰・お鉢巡りへ向かう登山道と下山道の分岐です。風も強くなってきたので、お鉢巡りは諦めて下山することにしました。下山道は登り道とは別に作られた幅広い緩やかな道で、ど

んどん下っていきけます。ただし砂利道で滑りやすいので要注意!

午後2時半頃、霧の中に目印の鳥居が見えてきました。その脇が上江戸屋さんです。小屋に入って、靴と雨具を入れるバックをもらい、荷物を置かせてもらっていた寢床へ

置いて夜ご飯まで仮眠。夜は

小さなハンバーグの乗ったカレー、横にパック入りの朝ごはんが置かれていました。



午前1時には次々に出発する人たち。私たちは4時頃起きて寝室から廊下に出ると、外のテラスや廊下の窓から外の雲海を眺めている登山者が列をなしています。雲海の一部が光っていて、そこから陽の光が差してきました。午前6時前、江戸屋さんを出発。

しばらくは抜けるような青空。ある地点から、はつきりと雲の中に入っていきました。やはり、2時間を超えた頃から膝が痛みだしました。ゆ

っくり休み休み下っていくと見覚えのある六合目の富士登山安全指導センターの建物が

見えてきました。このあたりから、雨が落ちてきて燧道の中で雨具着用。途中から木立の中の道に変わり、しばらく行くと正面に賑々かな五合目のバスターミナルが見えてきました!

土産物店の2階のレストランでちよつと早いお昼です。周平はうどん、私は「噴火カレー」。富士山の形のご飯にカレー、その上に紅ショウガがトッピングされていました。

生ビールで乾杯したことは言うまでもありません!

翌日はサンティアゴのプチ観光。大聖堂のミサにももう一度。残念ながら「ボタフメイロ」という大香炉が高い天井からブーンブーンと振り子のように揺れる様は見られませんでした。大聖堂の中を巡り、売店でお土産を買ったりしました。周りの路地では、大小のグループが様々な楽器を演奏して、音楽に合わせて踊っていました。気が付くと周平はその踊りの輪の中にしっかりと溶け込んでいました!

コンポステラに着いた日のデイナーは大聖堂脇のパラドールで頂きました。スペインのホテルで最高級のランクがパラドールなのですが、その中でもトップに位置するホテルがここ。中で働いているホテルマン&ウーマンの皆さん、そのことに誇りを持っているのでしよう。背筋がピンと伸びて歩き方もきびきび、対応もとても良かったです。翌日はサンティアゴのプチ観光。大聖堂のミサにももう一度。残念ながら「ボタフメイロ」という大香炉が高い天井からブーンブーンと振り子のように揺れる様は見られませんでした。大聖堂の中を巡り、売店でお土産を買ったりしました。周りの路地では、大小のグループが様々な楽器を演奏して、音楽に合わせて踊っていました。気が付くと周平はその踊りの輪の中にしっかりと溶け込んでいました!

した。翌日の予定を相談。「そうだ!大聖堂前の広場で配っていたチラシに載っていた「フイステラ観光はどうだろう」。メールのアドレスに、あしたでも大丈夫かと問い合わせたら「オフコースユーキャン」と返事。次の日、集合場所のガリシア広場に行くのと添乗員のダウラさんがニコニコ笑顔で迎えてくれました。バスはサンティアゴ市街地を抜けユーカリの林を通り、2時間程でフイステラの町へ。岬の突端でバスを下りました。ここそが巡礼の道の最終ゴール。フイステラとは最果ての地という意味です。ここまで歩いてくる巡礼者も何人か見かけました。見慣れた標識には0kmの文字。標識のところで海をバックにラウラさんと記念写真を撮りました。その後、漁港に戻り、各自自由にランチタイムです。ラウラさんにお勧めのお店を尋ねると、「おしゃれなレストランと漁師食堂のどちらがいい?」と聞かれたので、迷わず漁師食堂Iタコ料理とホタテ料理、白ワインを注文。地元の漁師さんたちが集うお店はさすがに美味しかった。そして魚介料理には白ワインがぴったり。約一か月の巡礼の旅・第2回のフイナレです。